

京情協特別企画 車座懇談会「村上憲郎氏を囲んで」の報告

<開催の概要>

日時 2012年11月13日(火) 17時30分より
会場 「ちおん舎」(衣棚通三条上る西側) 〒604-8202 京都中京区衣棚三条上る突抜町 126
TEL 075-221-7510 FAX 075-221-2048 <http://www.chionsha.com/>
内容 17時半 受付開始
18時 主催者挨拶など
18時10分 村上憲郎氏スピーチ
19時 食事しながらフリーストーキング
21時 終了
会費 3,000円 定員 40名



長谷川会長挨拶



<講演>

Googleの成り立ちについて

講演の枕として、Googleの成り立ちの説明があった。ミッションステートメントが他の会社に比べて明確になっていることがGoogleの大きな特徴である。Googleのミッションステートメントとは、「世界中の情報を整理して、誰でも簡単にアクセスできるようにすること」で、そこから外れない限りは原則的に何をしてもかまわない。

スマートグリッド、スマートハウスについて

Googleは現在提供しているストレージサービスやYouTubeのために、Googleとしてデータセンターを持っている。そのサービスを提供するためには、安定した電力供給が非常に重要になってくる。その電力を確保することはGoogleにとって切実な問題である。最短の場合、2014年までにスマートメータ(電力をデジタルで計測する機器、通信機能を持っている)が各家庭に設置される可能性がある。今までは電力というところとIT技術というところではあまり結びつきがなかったが、今後はスマートグリッド、スマートハウスという形で電力分野にIT技術が生かせるようになってくる。IT業界には大きなチャンスがある。一例としてエナリスという会社を挙げておられた。(現在は東京電力、関西電力と組んでいて、昨年の年商が40億、今年が80億、来年が受注ベースで200億とのこと)。





ビッグデータについて

スマートグリッドやスマートハウスで提供されるサービスは3項目までは決まっている。第一は消費電力の見える化、第二はインターネットを利用した家の外からの家電の操作、第三は見守りサービス(家電を通じてのデータの収集など)である。村上氏は第四のサービスを是非日本から出したいと言われていた。そのヒントとしてビッ

グデータを挙げておられた。amazonなどで過去の購買履歴からログイン時に次に買いそうなものを勧めてくる技術で、現在はそこまでしか実現できていないが、次世代のビッグデータでは、スマートハウスから集められてくる莫大な情報からその人がどのような人であるのかまでを判断できるようなものになる。そのための要素技術として、Hadoop + Unsupervised な機械学習というものを挙げておられた。



<食事および質疑応答>

食事をしながら、質疑応答を行った。アルコールも提供されており、和やかな雰囲気での質疑応答が行われた。

Q>スマートハウスからいろいろな情報収集がされるが、プライバシーの問題は？

A>プライバシーなんて存在しないものとするのが精神衛生上良いと思う。

Q>日本の会社の企業観とアメリカ

の会社の企業観の違い

A> 日本企業は品質に対して高コストをかけオーバースペックなものを作り上げる、アメリカはそこまでやらないということが根底にある。・・・

京情協としてはじめての取り組みであったが、講師の村上様への評価が高いのは当然な上、このような「少人数での座談会形式の講演会」という企画に対しても、多くのお褒めのお言葉を頂いた。殊に講師の実績に裏打ちされた内容のお話には、参加者全員が釘付けにならずにはおられない様子であった。また賛助会員数社よりも参加を得ることができ、事後には「実に良かった」とのメッセージまで頂いた。今後もこのような場を設定し、賛助会員までも含めて多くの会員に参加していただき、大いに研鑽しあえるように展開してゆきたい。

以上

<参加者>

(賛助会員)

富士ゼロックス京都株式会社 2名、富士通株式会社 京都支社、

(正会員)

京情協会長、京情協事務局長、京都コンピュータ学院 5名、アイマーケ株式会社、
株式会社 AIVICK、インフォニック株式会社、株式会社ウェルアソシエイツ、
カゴヤ・ジャパン 2名、株式会社克蘭ディム、けいしんシステムリサーチ株式会社、
株式会社島津ビジネスシステムズ 2名、ジック株式会社、株式会社総合システムサービス、
システムプロデュース株式会社、株式会社たけびし 3名、株式会社日本電算機標準 3名、
株式会社ネクステージ、バンテック株式会社、バンネットワーク株式会社、
株式会社ブリッジコーポレーション、民主党政務委員、株式会社メディアクリエイツ、
株式会社ユニシス 3名、ワールドビジネスセンター株式会社、
株式会社エクザム 5名 (設定、取材など含む)

参加者：合計45名